

福島工業高等専門学校 令和3年度 数理・データサイエンス・AI教育プログラム・内部評価

評価日時：2022年3月18日
 会議名称：評価改善委員会
 開催場所：福島工業高等専門学校

目的：令和3年度の数理・データサイエンス・AI教育プログラムの自己点検・評価
 評価項目：文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」の審査項目の観点による評価

自己点検・評価の視点	内部評価	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
プログラムの履修・修得状況	S	本プログラムに関わる全ての科目（情報基礎、情報基礎Ⅰ、情報基礎Ⅱ、人文社会科学演習Ⅰ、人文社会科学演習Ⅱ）は第3学年以下で必修科目として設定しており、全学生が履修・修得している。成績については教務委員会で確認している。
学修成果	A	令和3年度の授業科目の全学科の平均点はそれぞれ、情報基礎、情報基礎Ⅰ、情報基礎Ⅱが70点以上、人文社会科学演習Ⅰが90点以上、人文社会科学演習Ⅱが80点以上であり、十分な学修成果があがっている。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	A	本プログラムに関する理解度調査アンケートを3年生～5年生に実施し、全学年が数理・データサイエンス・AI教育プログラムに関する理解度が90%を超え、高い理解度を示す結果を得ている。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	S	令和3年度には、プログラム途中である1年生についても本プログラムに関するアンケートを実施しており、学生に対する推奨を実施している。また、本プログラムに関わる全ての科目（情報基礎、情報基礎Ⅰ、情報基礎Ⅱ、人文社会科学演習Ⅰ、人文社会科学演習Ⅱ）は第3学年以下で必修科目として設定している。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	S	本プログラムに関わる全ての科目（情報基礎、情報基礎Ⅰ、情報基礎Ⅱ、人文社会科学演習Ⅰ、人文社会科学演習Ⅱ）は第3学年以下で必修科目として設定していることから、令和3年度の履修率は100%である。今後も履修率も100%であることが見込まれる。

福島工業高等専門学校 令和3年度 数理・データサイエンス・AI教育プログラム・内部評価

自己点検・評価の視点	内部評価	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	A	令和4年3月時点で本教育プログラムの修了者で卒業生となる令和3年度5年生のアンケート調査では、卒業研究や就職・進学活動に役立てることができた学生が90%おり、今後の活躍が期待できる。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	A	令和3年度入試説明会では、中学校教諭より「データサイエンスを学ぶことのできる学科はどの学科になるか」との質問があった。福島高専では数理・データサイエンス・AI教育プログラムの申請を進めているところであり、どの学科でも学ぶことができる旨の回答をした。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	A	本プログラムに関わる科目の特に人文社会科学演習Ⅰおよび人文社会科学演習Ⅱにおいて、数理・データサイエンス・AIを学ぶ意義について講義している。これに関するアンケート調査では、90%以上の学生からその意義を理解し、有用なツールであるという認識を持っているとの回答を得ている。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	A	本プログラムに関する理解度アンケートや、FD委員会による授業アンケートの結果を総合的に評価し、評価改善委員会を通してPDCAを回すことにより授業内容・水準を向上していくシステムが整っている。

S：審査項目の観点を上回る成果を達成した。

A：審査項目の観点通りの成果を達成した。

B：審査項目の観点通りの成果を達成できなかったが、達成に向けての対策が立案され、対応に着手している。

C：審査項目の観点通りの成果を達成できなかった。さらに、達成に向けた対策が立案されていない。